



# 立田の新公園より 木曾三川公園の整備を

山田 門左工門議員

近隣市町と連携し、計画的に推進  
産業建設部長



▲道の駅の直ぐ近くにある木曾三川公園

**問** 住宅街の近くに、日常的に散歩できる都市公園がほとんど無いのは何故か。

**答** 本市が合併する前の旧町村の時に、比較的小規模な農村公園や児童遊園など、身近に利用できる公園を中心に整備してきた。

**問** 道の駅に付随する都市公園を新しく作るより、すぐ近くにある木曾三川

公園を利用するほうが、効果的ではないか。

**答** 道の駅再整備と森川花はす田を含めた公園として新たに整備し、特産品のPRできる場を設け、地域振興への寄与につなげたい。

**問** 財政状況が悪い愛西市は、国と協力し、木曾三川公園を整備する検討をしなかったのか。

**答** 木曾三川公園は市民のレクリエーションの場となっており、近隣市町と連携し、国に要望をしながら、第2次愛西市総合計画に基づいたレクリエーション施設や遊歩道の整備を計画的に推進していきたい。

## 小中学校適正規模 適正配置の計画は

**問** 平成26年から適正規模適正配置を進めるために検討開始したが、何故これほど遅れたのか。

**答** 保護者へのアンケートや各地区における懇談会など進めてきたが、市民に十分に伝わっておらず、唐突感があった。また新型コロナウイルス感染症対策などの影響で対面での対話の機会が設けられなかった。

**問** 学校規模適正化について、着手して8年も経過しているが、文科省が平成27年に発行した手引書に従って進めたのか。

**答** 27年に設置した愛西市立小中学校適正規模適正配置等検討協議会では、手引書を資料として配布している。

**問** 今後の全体計画は、どうなっているのか。

**答** 現在、基本方針の改訂について、パブリックコメントを実施している。今議会でも補正予算を計上し、今後新たな協議会において、学校規模適正化と学校施設老朽化対策を協議していく。